

神奈川県立がんセンター遺伝診療科レジデント研修評価表（年次）		
レジデント	期（氏名）	2022.3 ver. 2 レジデントは太 枠内を記入
指導医		
研修期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
がん専門医研修に遺伝診療医としての下記の目標について自己評価をするとともに、指導医による評価も受ける。		
A:修得したB:ほぼ修得したC:目標に達しない		
	自己評価	指導医評価
1. 以下の項目を理解している。		
1) 遺伝学史	A・B・C	A・B・C
2) メンデル遺伝	A・B・C	A・B・C
3) 非メンデル遺伝	A・B・C	A・B・C
4) 分子遺伝学	A・B・C	A・B・C
5) 細胞遺伝学	A・B・C	A・B・C
6) 集団遺伝学	A・B・C	A・B・C
7) 免疫遺伝学	A・B・C	A・B・C
8) 遺伝生化学	A・B・C	A・B・C
9) 腫瘍遺伝学	A・B・C	A・B・C
10) 体細胞遺伝学	A・B・C	A・B・C
11) 生殖・発生遺伝学	A・B・C	A・B・C
12) ゲノム医学	A・B・C	A・B・C
2. 以下の項目を理解し、遺伝医療を実践できる。		
1) 遺伝性疾患	A・B・C	A・B・C
2) メンデル遺伝病	A・B・C	A・B・C
3) 多因子遺伝病	A・B・C	A・B・C
4) 染色体異常症	A・B・C	A・B・C
5) 遺伝性腫瘍	A・B・C	A・B・C
6) ミトコンドリア遺伝病	A・B・C	A・B・C
7) 先天奇形・精神遅滞	A・B・C	A・B・C
8) アレルギー	A・B・C	A・B・C
9) 免疫異常	A・B・C	A・B・C
10) 生化学的異常	A・B・C	A・B・C
11) 遺伝性神経筋疾患	A・B・C	A・B・C
12) 遺伝性感覚器疾患	A・B・C	A・B・C
13) 薬理遺伝学的異常形質	A・B・C	A・B・C
14) 生殖障害	A・B・C	A・B・C
15) 遺伝医学的診断法	A・B・C	A・B・C
16) 遺伝情報を利用した治療	A・B・C	A・B・C
3. 以下の項目を理解し、遺伝カウンセリング(GC)を実施できる。		
1) GCの目的	A・B・C	A・B・C
2) GCの情報収集	A・B・C	A・B・C
3) 遺伝情報の整理、評価	A・B・C	A・B・C
4) GCの理論と面接スキル	A・B・C	A・B・C
5) GCと生命倫理	A・B・C	A・B・C
6) 主な遺伝病のGC	A・B・C	A・B・C
4. 遺伝医療に関係する以下の項目を理解している。		
1) 生命倫理の重要性	A・B・C	A・B・C
2) メディカルケア	A・B・C	A・B・C
3) 教育・啓発活動	A・B・C	A・B・C
4) 研究における倫理	A・B・C	A・B・C
自由記載欄：(欄不足の場合は裏面へ)		
評価： 年 月 日 判定： 優・良・可・不可		
指導医記載欄：		

提出方法:レジデントは研修期間終了時に自己評価を記入して指導医に提出し、指導医は指導医評価を記入後1ヵ月以内に総務企画課に提出すること。